

第13回 気候変動適応中国四国広域協議会

普及啓発活動について

令和7年2月

中国四国地方環境事務所
株式会社 一成

普及啓発活動（セミナー等の実施）

○目的・実施状況

気候変動適応中国四国広域協議会における取組及び気候変動適応における広域アクションプランの推進、並びに気候変動適応の認知度向上を目的とし、自治体等の関係者と連携してセミナー等を開催した。

大山蒜山周辺地域の植生をニホンジカから 守る広域連携情報交換会

○目的

- 気候変動による積雪減少等に伴うニホンジカの生息域拡大による高標高域の植生等への影響を未然に防止するための、**広域連携によるモニタリングの普及と情報共有**に関する取組を促進する。
- 「山林の植生・シカ等の生態系分科会広域アクションプラン」のフォローアップ。

○対象者

- 植生への影響程度、ニホンジカの生息状況及び捕獲情報を有する関係者等

○開催場所・回数

- 11/18 13:30～16:00
- 対面+オンライン併用
(大山町役場大山支所)



「サンゴの保全・利活用のための 広域連携情報共有」セミナー

－ 高緯度サンゴ群集域の今、海水温上昇による
海の変化を知る －

○目的

- 瀬戸内海及び太平洋における**サンゴ等の保全・利活用**のため**広域連携**による**市民参加型モニタリングの普及と情報共有**に関する取組を促進する。
- 「太平洋の沿岸生態系分科会広域アクションプラン」のフォローアップ。

○対象者

- 漁業関係者、マリンレジャー関係者、一般市民等

○開催場所・回数

- 11/22 10:00～12:00
- 対面+オンライン併用
(サンメッセ香川)



「未来の海を共に見守る -市民参加型モニタリング-」セミナー

○目的

- 瀬戸内海・日本海・太平洋の**水産業**における**気候変動影響への適応**のため、**広域連携**による**市民参加型モニタリングの普及と情報共有**に関する取組を促進する。
- 「瀬戸内海及び日本海の漁業等、地域産業における気候変動影響への適応」のフォローアップ。

○対象者

- 漁業関係者、マリンレジャー関係者、一般市民等

○開催日時、場所

- 12/21 13:30～16:30
- 対面+オンライン併用
(玉野産業振興ビル)



→広報など、ご協力ありがとうございました。

普及啓発活動（セミナー等の実施）

大山蒜山周辺地域の植生をニホンジカから守る広域連携情報交換会

■日時・場所

2024年11月18日（月）13：30～16：00

大山町役場大山支所（オンライン併用）



■参加者（現地48名、オンライン2名）

中国地方（特に大山蒜山周辺地域）のニホンジカの食害等による植生への影響程度、ニホンジカの生息・捕獲の状況等の情報を有する関係者（関係行政機関・団体等）

■内容

- ・ ニホンジカの動態と被害事例（中国四国地方環境事務所）
- ・ 大山蒜山周辺地域の魅力と希少植生（鳥取県立大山自然歴史館 館長 矢田貝 繁明 氏）
- ・ 中国地方における国有林内でのニホンジカ被害対策等について（近畿中国森林管理局）
- ・ 鳥取県・岡山県におけるニホンジカの生息・捕獲状況（鳥取県※、岡山県） ※：資料共有
- ・ 大山蒜山地域のニホンジカの分布拡大状況からみたモニタリング体制や対策の課題（兵庫県立大学 准教授・兵庫県森林動物研究センター 主任研究員 藤木 大介 氏）
- ・ 意見交換

大山蒜山周辺地域の植生をニホンジカから守るため、広域アクションプランの関係者（鳥取県、岡山県、近畿中国森林管理局、中国四国地方環境事務所）等の間で、同地域に迫ってきているニホンジカの脅威の共通認識をもつ場を設け、広域連携によりニホンジカ対策に取り組んでいく契機となった。

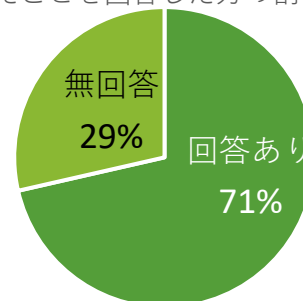
普及啓発活動（セミナー等の実施）

大山蒜山周辺地域の植生を二ホンジカから守る広域連携情報交換会

■当日の主な意見概要

- シカにより森がなくなり、希少な植物が無くなり、それが最終的には山が枯れて崩落するといった被害に繋がるといった事は、これまでなかった視点であったため、本日の結果を持ち帰り、シカ対策にも力を入れなければと考えるきっかけになった。
- 関係行政機関が協力・連携し、どこをどのように守るのか具体的な検討を行うことが必要。
- 本日の話を聞いて、シカ対策にも力を入れなければと考えるきっかけになった。現地で見てみるとシカは増え、被害が顕在化してきている状況である。主要侵入ルートของ ボトルネック部分で侵入を食い止めることに重点的をおいて取り組んで頂きたい。

セミナーをふまえ新たに取り組みたいと思ったことを回答した方の割合



■アンケート結果（セミナーをふまえて自身の地域等で新たに取り組みたいこと）

- 知人などにもシカ害に関する話をし、多くの人が問題意識をもつようになればいいと思った。
- 被害指標（SDR）を参考にして戦略を立て、効率的な捕獲等につなげていきたい。
- 自分が保全活動しているエリアで柵の設置や捕獲を検討したい。

アンケート結果から「新たに取り組みたいこと」の回答が約70%あり、特に自治体関係者から「大山蒜山地区の周囲まで、シカの分布拡大していることが再確認出来た」、「センサーカメラによる定点観測を復活させようと思った。」などの感想があり、参加者が担当地域における対策について考え、取り組むきっかけになったと推察された。また、自治体や専門家による情報提供・情報共有により、今後のシカ対策の連携に向けた機運が醸成されたと思われる。

普及啓発活動（セミナー等の実施）

「サンゴの保全・利活用のための広域連携情報共有」セミナー － 高緯度サンゴ群集域の今、海水温上昇による海の変化を知る －

■日時・場所

2024年11月22日（金）10：00～12：00
サンメッセ香川（オンライン併用）



■参加者（現地12名、オンライン31名）

行政・自治体職員、一般市民、環境保全団体、マリンレジャー関係者等

■プログラム

- ・ 適応アクション① 将来予測を踏まえた適応の方針検討と見直し
「浅海域の生態系（藻場、サンゴ群集）の変化と将来予測」
（国立環境研究所 熊谷 直喜 主任研究員）
- ・ 適応アクション② 広域ネットワークによるモニタリングと情報共有
「気候変動による四国南太平洋沿岸のサンゴ群集の移り変わり」
（（公財）黒潮生物研究所目崎 拓真 所長）
- ・ 香川県沿岸域で激減する二枚貝とその要因 ～アサリを例に～
（香川大学 瀬戸内圏研究センター 一見 和彦 教授）
- ・ 意見交換（質疑応答含む）

香川県においても海水温上昇の影響が見られていることから、香川県の関係者に将来の生態系の変化について知っていただく場を設け、瀬戸内海及び太平洋におけるサンゴ等の保全・利活用のため広域連携による市民参加型モニタリングの普及と情報共有に関する取組の必要性を共有した。

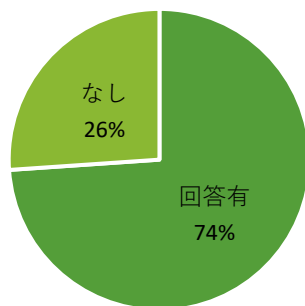
普及啓発活動（セミナー等の実施）

「サンゴの保全・利活用のための広域連携情報共有」セミナー － 高緯度サンゴ群集域の今、海水温上昇による海の変化を知る －

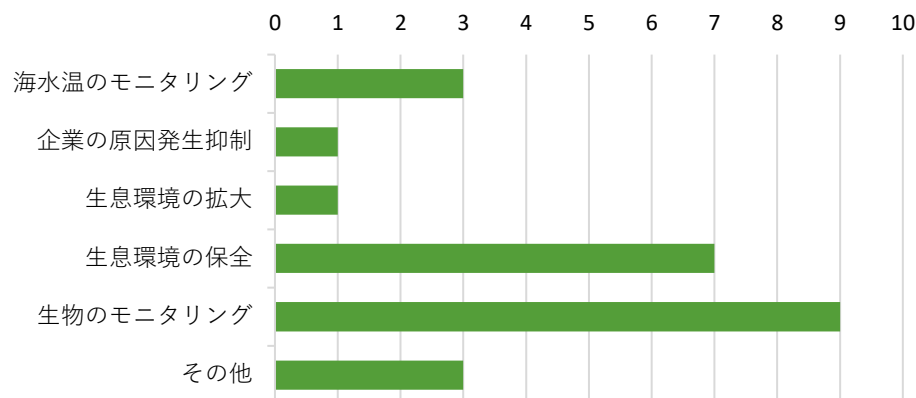
■ 結果概要（参加者アンケート回答の抜粋）

- ・ 一年中潜水してモニタリングと個体数の確認、生息域の確認をしていけたらと思います。
【潜水土】
- ・ 住んでいる地域でもサンゴの調査が出来ればと感じました。【一般市民】
- ・ モニタリングや保全、適応の担い手（と意識している人）が少ないので、地域の自治体と協力して、住民と対話する機会を増やしたり、実際にモニタリングや保全、検討の機会を作っていきたい。【自然保護団体】
- ・ かがわ里海ガイドの活動の一環として海の生き物に関する講座づくりに活かしていきたいです。【自然保護団体】

新たに取り組みたいことを回答した方の割合



海水温の変化に対する必要な活動



アンケート結果から「新たに取り組みたいこと」の回答が約74%あり、今回のセミナーをふまえサンゴだけではなく、海への関心を高めることができた。また、海水温や海洋生物への変化に対するモニタリングの必要性についても理解いただくことができた。

普及啓発活動（セミナー等の実施）

「未来の海を共に見守る -市民参加型モニタリング-」セミナー

■日時・場所

- ・ 2024年12月21日（土）13：30～16：30
- ・ 玉野市産業振興ビル（講演のみオンライン併用）

■参加者（現地15名、オンライン20名）

- ・ 一般市民、高校生、行政・自治体職員、環境保全団体等



■プログラム

- ・ 気候変動影響への適応 広域アクションプラン
ー瀬戸内海及び日本海の漁業等、地域産業における気候変動影響への適応広域アクションプランについてー（中国四国地方環境事務所）
- ・ ICTとモニタリング ～どうやってデータを計測して、活用するのか～（岡山大学 講師 松田 裕貴 氏）
- ・ 身近な海の変化とこれから海のためにできること（株式会社邦美丸 富永 邦彦 氏、富永 美保 氏）
- ・ ワークショップ（現地参加者対象）
 - ・ 気候変動が地域産業（特に水産業）に与える影響をみんなで考える。
 - ・ 気候変動影響への対策をみんなで考える。



瀬戸内海・日本海・太平洋の水産業における気候変動影響への適応のため、水産業関係者から肌で感じる海の変化や専門家の方からモニタリングの方法や活用についてご説明いただき、高校生参加者を交えた現地参加者で、特に水産業への気候変動影響や対策について考える場を持ち、未来の海を守るためには市民参加型のモニタリングの重要性や自分たちにできる対策を共有できた。

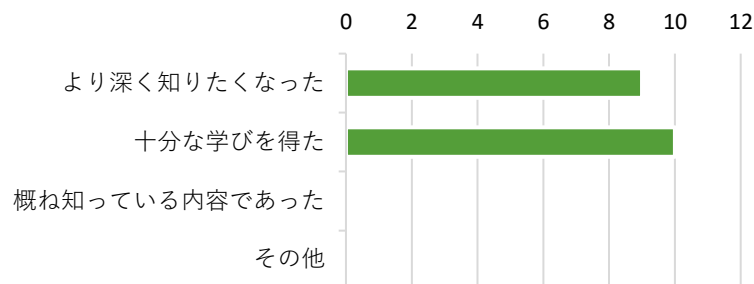
普及啓発活動（セミナー等の実施）

「未来の海を共に見守る -市民参加型モニタリング-」セミナー

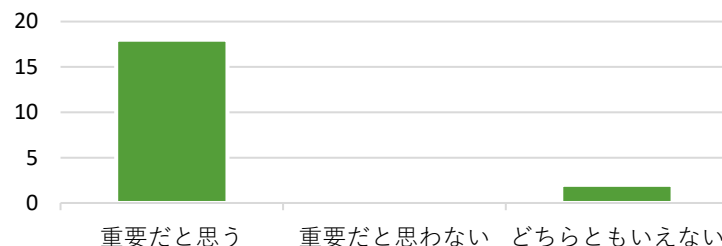
■結果概要（参加者アンケート回答の抜粋）

- ・ 周辺地域の自然の変化に関心を持って観察しようと思う。ゴミの量を減らそうと思う。【市民】
- ・ 地場の魚を地場で消費するという文化を根付かせたい。【行政・自治体職員】
- ・ ワークショップを通して、デメリットをメリットに近い形で活用できるのではないかと思った。【学生】
- ・ 今回受講した内容を周囲にも知らせ、この状況を多くの人に知ってもらうことが重要だと思った。【学生】
- ・ 海の内容とは関係あってもなくてもセンシングに興味を持った。将来AIを勉強してあらゆる面で活用したい。【学生】

参加者の感想



モニタリングへの関心



- 講師（漁業者）から、陸域にあるゴミは必ず海に辿り着き漁業に悪影響があるという紹介があり、アンケートではゴミ対策に取り組むという回答が多く得られた。また、アンケート結果からでモニタリングの重要性も共有できた。ワークショップでは、気候変動の適応策として、「現在食べていない魚の調理方法を新たに考える。」など、気候変動の影響への適応について自ら取り組む意見が交わされた。
- ワークショップの後で講師（漁業者）から、「皆さんに海の事を漁師の実体験として感じてもらえるよう発信する良い案が浮かび、とても勉強になった。」との感想を頂いた。

次年度に向けた対応（案）

【今年度の結果のまとめ】

- ✓ 大山・蒜山周辺地域でのニホンジカ情報交換会では、行政等同意地域関係者にニホンジカの状況を共有することで、各主体の対策検討・連携した取組への機運が高まった。今後も、その各取組（生息調査や被害状況）を共有する場としてのセミナーや情報交換が期待される。
- ✓ 高緯度サンゴ群集域セミナーでは、市民によるモニタリングへの機運を高めるとともに香川県や香川大学からネットワークへの参加意向を得るなどの成果を得た。一方で、現地参加者が少なかったことから、広域を対象としたオンラインのみとすることや現地参加のプログラムや情報交換を別途開催するなどの工夫が必要であると思われる。
- ✓ 市民参加型モニタリングセミナーでは、高校生と大人が交流するワークショップによって、講師や参加者の関心を高めることができた。一方で、現地参加者が想定より少なかったことから、高校生のみならず、SNSなどを活用した環境系の大学サークルに所属する学生への呼びかけやスマートフォン端末を活用したモニタリングの実践などをプログラムに盛り込むことが有効であると思われる。

【次年度以降の対応（案）】

- ✓今年度の実施内容やアンケート内容を有効活用し、実施主体の意向を踏まえた開催時期、場所、テーマ、講師を選定する。
- ✓ハイブリッドの場合は現地参加が少なくなることから、オンラインのみか、現地開催のみとするなど、効果的な開催方法を検討。また、広く広報するだけでなく、今後ともに活動いただける団体への呼びかけや情報交換等の連携を行う。
- ✓小中学校、高校生、大学生などの学生にむけて、参加しやすいワークショップやアクティビティを盛り込んだセミナーを企画し、より多くに普及啓発を行う。